

新型インフルエンザ対策について

厚生労働省

平成21年10月19日

新型インフルエンザ(A/H1N1)の特徴

●感染したほとんどの方は、**比較的軽症のまま数日で回復**

- 治療薬(タミフル・リレンザ)が有効である
- 現在の季節性インフルエンザワクチンは有効ではない

●**基礎疾患(糖尿病、ぜん息等)を有する者、妊婦等で重症化するおそれ**

(季節性インフルエンザは高齢者、妊婦等で重症化する傾向)

●**多くの方が免疫を持たないため、季節性インフルエンザより流行規模は大きく、感染者数も多いと予想される。**

- 季節性インフルエンザよりも**伝播力(人に感染させる力)は強い。**

新型インフルエンザの状況

【特徴】

基礎疾患(糖尿病、ぜん息等)を有する者、妊婦、小児等で重症化のおそれ

(注: 季節性インフルエンザでは高齢者が重症化のおそれ)

【流行の状況】

新型インフルエンザは、本格的な流行期入り

	9/14-9/20	9/21-9/27	9/28-10/4	10/5-10/11
インフルエンザ定点医療機関当たり平均報告数	4.95 →	4.25 →	6.40 →	12.92
(上記から推計された全国の受診患者数:	約27万人	約24万人	約33万人	約64万人)※1
(同時期に報告のあった入院患者数:	235人	220人	277人	407)※2

今後、冬にむけて、流行が急速に拡大していくおそれ



※1国立感染症研究所情報センター発表

※2厚生労働省「インフルエンザ入院サーベイランス」

データ10/15時点

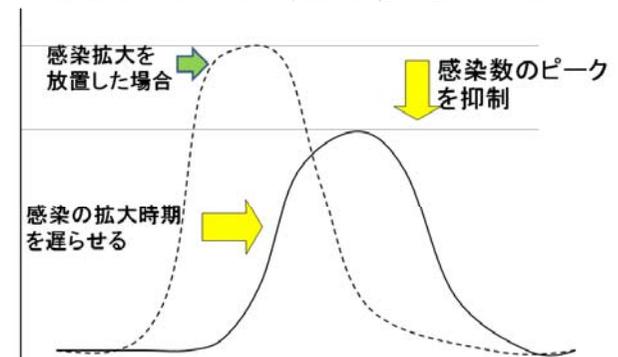
対策の基本的考え方

○ 基礎疾患を有する者等の重症化しやすい者を守り、死亡者や重症者の発生をできるだけ抑制する

⇒ 患者数の急激で大規模な増加をできるだけ抑制し、社会活動の停滞や医療提供体制への影響を低減

⇒ 医療機関の負担を可能な限り減らし、重症患者に対する適切な医療を確保

患者数の急激で大規模な増加を抑制・緩和



定点当たり報告数

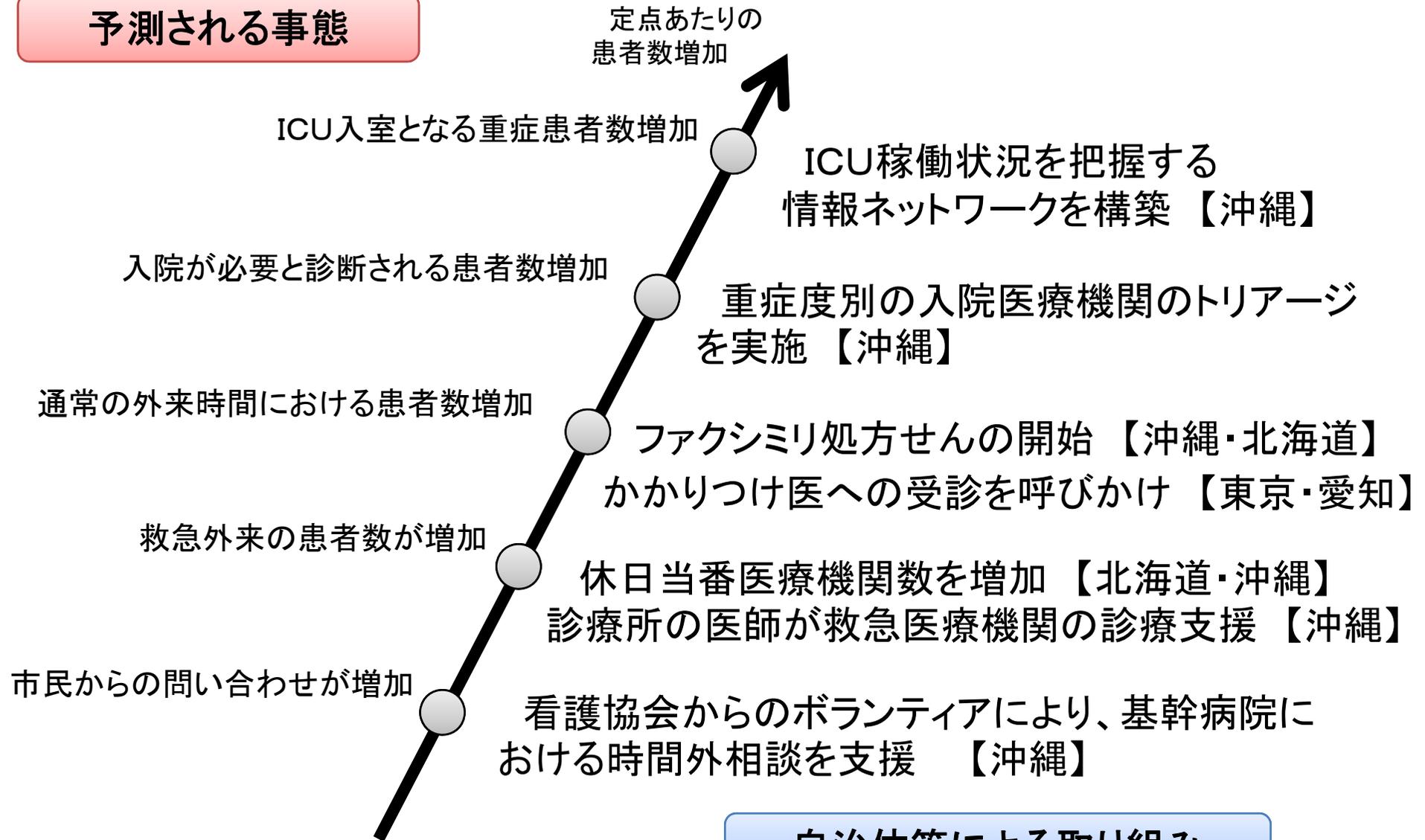
— 38週～41週・都道府県 —

	38週	39週	40週	41週
	定点当たり	定点当たり	定点当たり	定点当たり
総 数	4.95	4.25	6.40	12.92
北海道	8.21	6.18	16.99	38.96
青森県	0.75	0.63	1.80	4.65
岩手県	3.55	5.02	4.08	5.52
宮城県	7.07	3.85	5.55	7.73
秋田県	1.98	2.18	3.04	10.49
山形県	1.17	0.56	0.75	1.00
福島県	1.65	1.51	2.21	3.76
茨城県	2.49	2.20	3.77	9.34
栃木県	2.58	2.28	2.50	5.92
群馬県	2.58	2.18	2.93	6.48
埼玉県	6.83	6.29	8.10	16.89
千葉県	7.31	5.14	7.66	15.79
東京都	10.24	6.68	9.60	18.98
神奈川県	7.09	3.84	8.05	21.63
新潟県	1.18	1.18	2.80	4.57
富山県	0.56	0.33	0.56	1.94
石川県	0.79	0.60	1.31	1.79
福井県	2.13	1.53	1.81	2.59
山梨県	2.90	1.63	1.85	3.60
長野県	1.58	1.82	2.01	2.69
岐阜県	2.20	2.66	4.06	7.45
静岡県	1.15	1.00	2.11	5.39
愛知県	5.81	6.83	10.39	23.52

	38週	39週	40週	41週
	定点当たり	定点当たり	定点当たり	定点当たり
三重県	1.92	2.69	5.51	11.07
滋賀県	4.79	8.67	6.65	9.73
京都府	4.65	4.34	6.44	9.81
大阪府	9.21	8.82	8.54	16.96
兵庫県	7.15	5.19	8.94	16.54
奈良県	3.56	3.15	4.85	9.07
和歌山県	3.84	3.12	5.26	5.88
鳥取県	0.97	1.17	0.93	2.28
島根県	0.92	1.42	1.32	1.76
岡山県	0.93	1.32	1.93	3.24
広島県	1.73	1.63	2.28	5.43
山口県	1.73	1.28	1.94	2.06
徳島県	0.73	1.32	1.64	3.27
香川県	2.64	2.70	3.47	4.55
愛媛県	0.72	0.34	1.25	2.03
高知県	4.25	3.17	2.40	4.75
福岡県	6.99	8.79	13.41	23.48
佐賀県	1.59	1.85	6.59	8.23
長崎県	5.99	3.36	5.57	9.90
熊本県	2.08	1.54	3.25	6.44
大分県	2.97	3.55	4.95	7.31
宮崎県	1.95	2.46	2.81	7.56
鹿児島県	2.16	1.73	2.40	3.14
沖縄県	12.52	12.12	10.47	19.48

急速に患者数が増加している地域における対策(具体例)

予測される事態



新型インフルエンザ対策(ポイント)

以下の対策を組み合わせて、総合的に対策を実施

○地方自治体と連携した適切な感染防止対策の実施

⇒ 学校、施設等における感染防止対策の徹底、院内感染の防止 等

○大規模な流行に対応した医療体制の整備

⇒ 重症化防止を最優先とする医療体制の整備(病床の確保、診療体制の充実等)

○ワクチンの確保と接種の実施

⇒ 重症化の防止を目的に、必要量を確保し、ワクチン接種を順次実施
(10月中旬～)

○的確なサーベイランス

⇒ 重症患者、死亡者の把握並びにウイルス性状の変化の探知に重点を置いて実施

○広報の積極的展開

⇒ 全国民対象に感染予防のための基本メッセージ(手洗い、うがいの励行、咳エチケット等)を伝達基礎疾患等をお持ちの方々への注意喚起を継続

ワクチン接種について

新型インフルエンザ(A/H1N1)の特徴について

○季節性インフルエンザと類似した点が多い。

- ①感染力は強いが、多くの感染者は軽症のまま回復
- ②治療薬(タミフル、リレンザ)が有効

○しかしながら、

- ①基礎疾患(糖尿病、ぜん息等)を有する者、妊婦等は、重症化する可能性が高い
- ②国民の大多数に免疫がなく、感染が拡大するおそれ大きい

今回のワクチン接種の目的について

インフルエンザワクチンは、

- ・重症化等の防止については、一定の効果が期待
- ・感染防止の効果は、保証されていない。



○今回のワクチンの接種の目的は

- ①死亡者や重症者の発生をできる限り減らす
- ②患者が集中発生することによる医療機関の混乱を極力防ぎ、必要な医療提供体制を確保する

<感染防止を目的とするものではないことに留意>